

## オアシス21 ハマナス療養棟

症例概要 入所者：男性 80歳代後半 要介護度 4

病名：廃用症候群、左肋骨骨折、肺炎

入所までの経過：認知障害の妻の介護を生きがいとし暮らしていたが、妻がR5年12月にグループホームに入所され生きがいを失ってしまい、R6年2月にご自宅にて転倒、食思不振あり急性期病院に入院。左肋骨骨折は認められたが消化管には明らかな病変はなく、回復期病院にリハビリ目的でR6年3月に転院。回復期病院入院中に肺炎になるなどあったが、リハビリ継続され、在宅復帰・介護サービス調整目的でR5年5月中旬にオアシス21に入所された。

### 内 容

令和6年2月ご自宅で転倒され、整形外科では特に指摘なく帰宅されています。その後摂食不良となり、転倒から4日後にA病院に搬送入院され左肋骨骨折で入院。ご自宅で介護困難な状況あり令和6年5月当施設入所されています。入所当初は、生きがいとしていた認知症の妻の介護が令和5年12月に妻が施設入所となり無くなり元気が無くなった様で活気なく食事以外は、ほとんどの時間は居室のベッドで休まれている事が多く見られました。評価を行ったとこと、肩関節、腰部に疼痛がありました。耐久性も低下しており、筋力も低下していました。入浴後はリハビリを休む様子もありました。

ご本人に何かやりたい事はないか尋ねたところ「書道をやってみたい」との返答あり、書道のレクリエーション活動実施。表情も良く素晴らしい作品をお書きになった為、棟内に作品展を作成した所笑顔が見られ、ご家族の面会時には娘さんに自分の作品を見ていただきお話している様子が見られました。ご家族もとても喜ばれており一緒に写真を撮影され次の面会時に撮影した写真を持ってこられるなど笑顔が多く見られています。ご家族も昔作成した作品を持ち込まれ一緒に楽しまれている様子がありました。書道を行ってからご自身で歩行器歩行を行うことが増えていきました。リハビリも意欲的になり、自宅退所に向けた歩行訓練を中心に行いました。この頃より日課として午前中の体操に参加して頂くよう声掛けを実施。声掛けを行う事で初めは寝ていることが多かったですが少しずつご自分でホールに来ていただける事が多くなり現在ではほぼ毎日自ら参加されています。このような活動の中で生き活きとした表情も多く見られるようになり、生活リハビリとしておしぼりの袋開け作業も行われ、他の利用者と共に笑顔で作業が行われていることもあります。令和6年7月には石狩市の地域のイベントに作品を出展し、その作品を見るために娘さんと外出されます。その外出に向けて外靴の準備や杖での屋外歩行の訓練を行い準備してきました。展示見学中は杖歩行を行っていましたが疲労少なく見学することが出来ていました。作品出展を行い、ますます表情が明るくなっていきました。外出後は肩関節・腰部の痛みはほとんどなくなっ

ていました。入所当初よりも耐久性向上・筋力向上見られ、訓練では杖・壁伝い歩行で疲労少なく歩行できるようになりました。ご本人、ご家族にとっても新たな生きがいや思い出になっていると感じられます。